

ひるがのーと..

Vol.13

ご近所さんの近況を紹介するプチコーナー

Mamekana

花の駅
ひるがの高原
コキアパーク
ひるがの高原スキー場



7/12 より夏営業本格OPEN! 10/26 まで、ひるがの高原コキアパーク。台風も乗り越え、がんばって育ったコキアが、皆さんに愛らしい姿をお見せします。スキー場中腹のコキアを中心としたお花畑散策が素敵です。リフトで山頂まで行けば、晴れた日には白山連峰の美しい姿も望めますよ。「ジップライン」をはじめ、ちびっこに大人気「ストライダー」、誰でも気軽に楽しめる「ディスクゴルフ」、そして山頂BBQ。各種アトラクションも充実して、今年の夏はさらに楽しめますよ。

牧歌の里 Boka no Sato



大人から子供まで、みんなで楽しめます。夏休みはイベントも盛りだくさん。人気のパフォーマンスショーやクイズラリー、高原の音楽祭などなど。夜の星空観察会も催します。360°天然のプラネタリウムの美しさは、きっと忘れられない夏の思い出に。日程など詳細はホームページをご覧ください。動物とのふれあいや楽しい体験工房を満喫。おいしい食べ物や空気で心も体もおなかいっぱいしてくださいね。

中国料理 美食空間 翠花



本格派中国料理が味わえるお店! 地元ではおなじみのお店ですが、夏は季節限定「おろし冷麺」も始まります。どれもおいしい定番メニューの他、シェフの創作メニューもおすすめ。中華風みそかつや冷静豚しゃぶなどは、かなりのスペシャルメニューですよ。オリジナルデザート「飲む杏仁豆腐」ふるるひるがのには、サービスエリアや地元スーパーでも販売中。ぜひ一度おためしあれ。

TOCORO COFFEE



湿原植物園そばの小さなカフェ。爽やかなグリーンで統一された、居心地のいいお店です。時間をかけて一杯ずつゆっくり淹れるコーヒーはオーナーこだわりの、とてもおいしいと評判です。時間もゆっくり流れます。お急ぎの方はコーヒー味の黒ソフトはいかがですか?大人の味です。他に地元産野菜や植物などの物産品も販売中。ぜひ、散策途中にでもぶらっとお立ち寄りください。

イベント情報やちょっと報告したいこと告知など、ひるがののことも何でもOK。情報をお寄せ下さい。発行に間に合う記事を掲載いたします。

REUSE トトロの会

子供服やベビー用品のおさがり募集中!
毎月第1・第3木曜日の午前中。ひるがの老人憩いの家で、トトロの会を開催しています。トトロの会は、保育園に通う前の小さな子供たちとお母さんの集まりです。使わなくなった子供の服やおもちゃなど、ぜひ譲ってください。当日、直接持ってきてくだされば幸いです。

「ひるがのーと」ご協力 ありがとうございます

お陰様で、たくさんの方から寄付や賛助を頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。なお、郡上市からの補助金による運営は昨年度までで終了し、今年度からは補助金なしの運営となります。引き続きみなさまの篤いご支援をお願い申し上げます。

ひるがのーと 協力金

ありがとうございました

青木 さん	伊藤洋介さん
安田瑞彦さん	藤井 さん
古橋 武さん	高原正典さん
松井秀樹さん	渡辺紀代美さん
井澤 浩さん	福手豊丸さん
野坂 さん	滝村 さん
横井やえのさん	

■ ひるがのーとの会 ■

代表 / 清水 聡 0575-73-2101

■ 制 作 ■

ばっば・るいーず (中屋園実 森祐子)

■ 協力 写真・文 ■

舟橋哲也 中田信也

ひるがのーとへのご意見・ご感想もお待ちしております。どうぞお気軽にご連絡下さい。

ひるがの簡易郵便局の観光案内所
(湿原植物園窓口) 中田まで

ひるがのーとの会

●協力金一口 / 500円より

ご協力いただける方はお手数ですが、
〇フレッシュフーズひるがの 田中多恵さん
〇観光協会・湿原植物園窓口 中田さん
どちらかへお願いいたします。



【写真：舟橋哲也】

編集後記

娘が言いました。「朝の外、すごくいい匂いがした。」
「もう夏だもんね。」と私。
うちでは毎朝、朝食の前にはラジオ体操をしています。それはもう年がら年中、季節に関係なく。この季節は気持ちがいいので、天気の良い日は家を出て体操します。朝の空気は娘が言うとおり、とても清々しくて、マイナスイオンも割増な感じです。「森林浴」なんて言葉がありますが、ここではそれが特別なことじゃなく、いつもそばにある当たり前のこと。深呼吸するだけで、草木やお日さまや、土の匂い。それに「もうすぐ雨が降るかもね」という匂いまでわかります。当たり前だけれど、とても贅沢なこと。身の回りにはある当たり前に、鈍感になっていないかな? 子供と話すたびに自分を振り返ります。水道をひねれば飲める水が

出てくるということ。家族が毎朝「おはよう。」と起きてくること。自分が元気でどこにでも出歩けること。どれも今の自分には当たり前のことだけれど、でもこれってホントにずっとずっと未来も続くのかな?
この当たり前は、自分の知らない誰かのおかげで成り立っていたり、自分が変わらず努力することで成り立っていたり、関わる人同志がお互いに力を合わせて出来上がっていたり。当たり前のことだけれど、たまには改めて考えてみるといいかな、とか。いやいや、ほんとはいつも忘れちゃいけないことだよな、とか。もっと言えば、これを守ることを人任せにしちゃいけない気がする、とか。朝の体操から日々の当たり前を考えてみました。あたりまえたいそ〜、ちゃんちゃん。(笑)

ひるがのーと..

ひるがのーとは、皆さんの補助金と観光協会からの支援を受けて作成しています。

編集・作成
ひるがのーとの会

発行日/2014.7.25



ひるがのではこれが常識！ 夏直前のバレーボール大会。

最近、ちまたでは地域の行事がどんどんなくなっているのだとか。古くから続いてきた祭でさえ、一年おきにしか行わなかったり、後継者不足でできなくなったり。そんな地域が少なくないといえます。ところがところが。ひるがのでは秋祭の他にも、夏前にもうひとつ、盛り上がる行事を続けています。それが、ひるがの内の全地区が参加する地区対抗のバレーボール大会（以下 VB 大会と呼ぶことにします）。めんどくさいけど？無理やり？まあ参加する気持ちはそれぞれでしょうが、結局なんだか楽しんじゃってるのがひるがのらしい。そんなVB大会を改めて見つめてみました。



①高鷲北小2面のバレーボールコートで試合。
②準備体操は念入りに。遊びだけど真剣勝負。
③熱が入ってきましたね。
④こうして組員の団結力が育ちます。



体育館コート 2 面使用。
7 地区 + 1 の熱い闘い。

Volleyball

6月1日日曜日の朝8時。今年もひるがの区民対抗バレー大会が始まりました。場所は高鷲北小学校の体育館。ひるがのの7地区（組）の地区対抗ですが、この日は北小の先生たちも1チームを作って参加するのが毎年の恒例になっています。7地区+教員チームの合計8チームで優勝を狙う勝ち抜きトーナメント。体育館の二階から見下ろすと、その様子がよくわかります。コート2面の試合と応援の人たち。何かの公式大会さながらの、けっこうな動員数です。始まった頃は種目がソフトボールだったという話もあったり、第一回がいつかは正確にはわかりませんが、少なくとも30年前後続いているなかなかの歴史ある球技大会なのです。

みんながんばれ！！

応援団

知らず知らず
応援の方も
白熱します。



組員なら誰でも OK。
実はひるがのご近所デビューの場？

Volleyball

ひるがのの組に所属していれば、基本的には誰でも参加できるこのVB大会。出場するメンバーは、性別はもちろん、年齢も体格や体力も、バレー経験の有無も、何もかもまーったくのバラバラ。試合は老若男女まぜまぜのスペシャル混合チーム同士の対戦です。だからといって決して、お遊びではありません。どのチームも勝負には真剣。運動不足の体で熱く試合に臨んでいるからこそ、まさかの好プレーや、やっばりの珍プレーが生まれます。そうして自然と応援にも熱が入るのです。

試合を応援する人たちの間で、毎年必ず話題になるのが「あの誰？」「あれはどこの息子さん？」などの気になるご近所さんネタ。この日はひるがの住民の大部分が体育館に集まるので、日頃は見かけない人を目にする機会でもあります。進学や就職でよそへ行ってた若者や、引っ越してきたばかりの新しいご近所さんなどが、VB大会を通じてなんとなくお披露目される、という一面もあるのです。

そういう意味でも、このVB大会は、ひるがのにとって重要な行事のひとつになっているのではないのでしょうか。



試合は熱く。だって、
打ち上げの飲み代がかかっているから。

Volleyball

今年の優勝チームは麓林坂。その他のチームも優勝を目指して健闘しました。地域の行事だから出ないとね、というお義理な感じで参加しても、やり始めると不思議に勝ちたい気持ちが顔を出し、結果、みんなが真剣。それがこのVBの魔力とでもいましょうか。そして、みんなが必死に上位を目指すワケ。それはもちろん、地域のみなさんとの絆を深め、日頃の運動不足を解消するため…。て、それもありますが、ぶっちゃけ賞金狙い！…かも。毎年、このバレー大会の後には、どの組も打ち上げを兼ねた親睦会、つまり飲み会を予定しています。バレー大会の賞品は、何よりもうれしい現金で、順位によって金額が違うので、飲み代をかけて、それはもうチーム一丸となってがんばってしまうのです。

公民館の役や組長などは年ごとの持ち回りで、大会を開くにはたいへんなこともあります。それでも結局「みんなで楽しく食べたり飲んだりできればすべてオッケー」みたいところが、ひるがののカラー。よそでは消えていくばかりの地域行事を、みんなの楽しみとして続けていける、ひるがののいいところをまたひとつ再確認しました。

ひるがのに この人あり！！

板橋チーム最年長参加の中邑けいじさん。
少数精鋭メンバーの板橋地区は、全戦ほとんどフル出場。白熱する決勝戦では思わず応援したくなる活躍ぶりです。会場をとりこに。



白熱!!
決勝戦

麓林坂 vs 板橋



さすが決勝戦！攻撃もさることながら、お互いに簡単にはボールを落とさず、続くラリー。見ているこっちもドキドキです。最終結果は麓林坂チームに軍パイがあがりました。

結果発表～！ & 各組の打ち上げご飯～！

突撃！

のぞいたことある？地区ごとの打ち上げ～！

お楽しみはこっちが本番、という人も少なくない地区の打ち上げ。子供も大人も、そして近くに住んでいても日頃はなかなか顔を合やすことの少ない近所さんとも、この日はじっくり親睦を深められます。意外と他の組の打ち上げの様子は知らないものですが、地区ごとに特徴が出るものですね。

ろくりんざか 麓林坂

No.1



マス園・トラウトにて。優勝チームは、おいしいお酒で乾杯。テーブルの上には、熊めしなんていう珍しいメニューも。例年、ここには他からの乱入者が大集合。私たちは早めに退散した方がよさそうです(笑)

いたばし 板橋

No.2



板橋公民館にて。鍋でケイちゃんや焼肉。親戚の集まりみたいなアットホームな雰囲気。ほぼ現役のパレー経験者も多い中で、年長者も大健闘。そのおかげでパレーは2位でした。

あやめ沢

No.3



ホワイトベッカー前で。優勝を予定して用意したという骨酒や、竹の子の炭火焼など、大人な雰囲気の打ち上げ会。パレーの方も平均年齢が上昇中で、かなり大人なメンバー構成に。

ひるがの

No.4



今年は福手さん宅の車庫付近でバーベQ。組長さんの山下夫妻は関西出身なので、お手製のたこ焼きも登場。ケイちゃんや朝からお母さんたちが集まって作る朴葉ずしは毎年の定番。

高鷲



バーベQほか、いろんなごちそうが。細い竹の棒に生地を巻きつけて焼くパンがおなじみメニューのひとつ。おじやました頃は食事が一段落して、まだまだ宴会は続いているものの、奥様たちは優雅なコーヒータイムでした。

新開地

No.5



老人いこの家にて。取材にお邪魔した時はすでに、みんなまったりなお時間。こちらケイちゃん手作り朴葉ずしは定番のようです。季節がらがでています。子供たちは年上のお姉さんたちと外で遊びまわって仲良しなのが印象的でした。

ひばり



湿原植物園前の多目的広場・ステージにて。オードブルを囲んで。まだ子供が小さい若い世代のファミリーが多く、和やかな雰囲気。でももっと上の年齢層の人たちも参加できるといいのに、と思っているんだとか。

高鷲北小教員チーム



地域参加ありがとうございました。



高鷲北小学校
IN SPRING



入学・進級して最初の学校行事。 なかよしオリエンテーリング

5月22日。高鷲北小学校の「なかよしオリエンテーリング」通称「なかオリ」が行われました。なかオリは、毎年の恒例行事。ひるがの高原スキー場、マス園、ホープロッジ、分水嶺公園。途中、お弁当を食べたりしながら、一日かけてひるがの中を歩きます。

北小では1年生から6年生までの学年混合の「なかよし班」を作って、一年を通して様々な行事に取り組んでいます。そして、なかオリはその「なかよし班」で迎える大切な行事のひとつ。1・2年生にとっては、一日中歩くというのは、体力的にもかなりハードです。それを中・高学年が低学年を励まし、支えながら乗り切るのが「なかオリ」。小さい子と大きい子がペアを組んで歩くので、入学して間もない1年生もお兄さんやお姉さんと仲良くなったり、尊敬したり。そして、自分が高学年になった時には、下の学年の子に優しくお世話してあげられる、という図式ができあがります。北小の子供たちが学年を越えて仲がいいのは、なかよし班やなかオリのおかげかもしれません。

この時期、新緑に彩られた山は、ため息が出るほどきれい。子供たちはまるで絵本の中を歩いているようでした。例年は、暑さでしんどいこの行事も、今年は肌寒いくらいの気候で、歩くにはちょうどよかったです。



笹舟作りを下級生にやさしく教える上級生たち。みんなで分水嶺で流します。



なかよしペアで
手をつないで安心。

お弁当が
めっちゃおいしい！

田島さんは、荘川のゴルフ場にお勤めの40歳。ひるがの生まれのひるがの育ち。釣りがとっても好き、という噂を聞いて、一度お話をお聞きしたいと思っていました。6月のとある晴れた日、田島さんが鮎かけに出掛けると聞きつけて、白鳥の川原まで追っかけてみました。鮎かけを間近で見るのは初めてのひるがの一と班は、川原の気持ちよさに、目的を忘れそうになりながらの取材となりました。

春はたけのこ、夏は鮎。秋はきのこ、
 自然の恵みを楽しみながら
 がっつり味わってます。



今日は釣れますか？

「うーん、今日はまだやねえ。今年は水が少なくて、新しい藻が少なくて、鮎も少なめかな。」
 言われてみれば、大きな石の表面には普段の水位を示す線が水面からだいぶ高いところに見えています。それでも川は気持ちよさそう。水音を立てて流れています。

釣れなくても平気なのかな？

「うん。全然平気。まったく苦にならないね。水の音が好きでさあ、一日いても飽きない。」
 「釣ってる時って、何を考えてる？」

初夏の川原は、山の緑も目に鮮やかで、風はそよそよと気持ちよくて。そっとなあ、何にも考えず、自分を解放できそう。贅沢な休日ですね。

お休みの日はだいたい釣り？

「この時期は用事がなければだいたい川やね。でも、今年はまだ3回目だよ。」
 まだ、って。解禁日から数えて、2週間くらいかなってわけ。

鮎かけはいつ頃かな？

「おやじがやってたから、中学生の頃からついていった。高校生になつてからは、朝、川に送ってもらって、夕方迎えに来てもらう感じで一人釣ってたな。」

この日はちょっと風が出てきました。鮎かけの竿はご存知の通り長くて重いので、風で揺れるとかがかかったかどうかはわかりにくく、苦戦するのだとか。釣れなくても平気という田島さんも、人を連れていくのはあまり得意じゃないらしく、子供さんたちと一緒に行くこともありますが、お世話をしていると自分が釣れない、という悩みもあるのだとか。川だけでなく、春にはたけのこ、秋はきのこを求めて山に行くのも楽しみ。時期が来るとウズウズするんだそうです。冬はスキー場が勤務先なので、スキーも少し。

初めての就職でひるがのを離れて暮らしたこともありましたが、人こみも苦手だし、今ひとつ馴染めなかったそう。

「街には住めん。」と冗談まじりに笑う田島さん。

ひるがのの魅力って何だと思ってるという質問には「うーん、どこかなあ？」と言ったとき。

私たちの帰りがけに、あ、と思いついたように

「ひるがの人は、郡上と荘川の両方の鑑札が買えるんよ。」と。

ひるがのは長良川と荘川の両方の源流にあたるため、両方の鑑札(鮎釣りに必要な許可証)を買えるというのが、ひるがの魅力でいっぱいだな。きらきら光る川面を確かに、釣り好きにはたまらない特典。

でも、ひるがのに生まれ育った田島さんの日常そのものが、ひるがのの魅力でいっぱいだな。きらきら光る川面を背に話す田島さんを見て、そう思う初夏でした。



田島 孝行さん(40)



ひるがの高原の春告鳥「カッコウ」

ばーど・うおっち
 File No.10
 カッコウ
 カッコウ目
 カッコウ科
 全長約35cm

「カッコウ、カッコウ、カコ・カコー」、余りに有名な鳴き声の持ち主が今回のテーマ。

体長35cm、翼開長60cm、体は細身で頭から背、翼の上面などは灰色、腹は白色で細かい横縞があります。

5月中頃、越冬地である中国大陸南部、マレー半島、インドシナ半島などから夏鳥として日本全国に渡来し、7月末までの2ヶ月半程で渡去。草原、耕地、牧草地と小さな林がある明るくひらけた環境にすんでいます。

ひるがの高原では、ゴールデンウイーク過ぎからその鳴き声がこだまします。カッコウという鳥の名がその鳴き声に由来するということは、既に皆さんご存じかもしれませんが、このカッコウの語源は世界的なものようで、英名では「クッカー」と言うそうです。自分の卵を他の鳥の巣に産み付けて育ててもらう「托卵」でもよく知られています。

ベートーベンの交響曲第6番 へ長調「田園」第二楽章「小川のほとりの情景」の終結部では、クラリネットにより鳴き声が描写されています。

鳴き声はポピュラーなカッコウも姿を鮮明にみた人はそんなに多くないと思いますがどうでしょう。大木のてっぺんに鎮座する独特でユーモラスな姿や、猛禽のようにも見える飛ぶ姿をじっくりみていただくと嬉しいですね。

【文/写真：舟橋哲也】

